

校内研だより



令和4年5月13日(金)
研究推進部
No.5

1 第3回校内研究会（都小社研第1回地区委員会）

(1) 日時 5月20日(金) 13:35~16:00

(2) 研究会場 アリーナ2階 ミーティングルーム

(3) 単元名 5年「あたたかい土地のくらし」

(4) 当日の進行

<第一部 校内研究会 研究授業>

13:35 研究授業 5年1組 授業者 笠原 駿

授業記録(全体) : 荒井

授業記録(抽出児) : 志村、崎浜

カメラ記録 : 太田

14:40 研究協議会 司会: 松本 協議会記録: 永山

・挨拶、講師紹介: 校長

・自評: 笠原

・協議

事前にカードに記入し、それぞれに出た視点ごとに協議をお願いします。

水色…良かった点 桃色…課題・改善点 黄色…疑問点、質問

15:20 指導講評

講師 櫻井 眞治 先生(東京学芸大学次世代教育研究センター教授)

16:00 謝辞 副校長

<第二部 都小社研第1回地区委員会>

16:30 地区委員会

・大会当日の授業について(学年部会づくり)

・大会当日の運営の役割分担について

・諸連絡

17:30 閉会 片付け

全てジャムボードでやってみます。

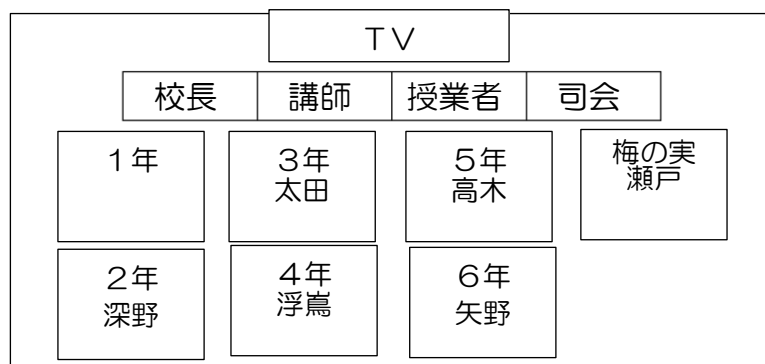
1枚目 質問用

2枚目~ 各学年

※話し合いで出た質問は、1枚目に

先生方は自由参加です!

2 会場図(ミーティングルーム) ※協議会は、児童の机で行う。



校外からの参観者には、各グループに入ってもらえます。

3 参観の視点

- ・既習事項を根拠に話し合うことができているか。(見方・考え方は発揮されていたか?)
- ・これから始まる産業学習を見通すことができていたか。(わくわくしていたか?)
- ・本時の問いや資料は有効だったか。

☆国土と産業を繋ぐ授業です。5月の段階でどこまでできるかチャレンジです。

4 すきかつ (時間外 OJT)

○メニュー

- ・つかむ段階
- ・調べる段階
- ・まとめる段階
- ・いかす段階
- ・各学年の内容
- ・学習問題の作り方
- ・資料の読み取り
- ・意見の繋ぎ方
- ・相互指名
- ・図解
- ・ノート
- ・ふりかえり
- ・評価の考え方
- ・作品作り (校長)
- ・明日の授業
- ・小ネタ
- ・
- ・学びを委ねる
- ・ファシリテーターとしての教員の立ち位置
- ・

☆今年度も楽しく、進めていきたいと考えています。お悩み相談会でもいいと思っていますが…。

5 その他

☆振り返りについて学年で話してみてください。

☆ペーパーレス活動にご協力をお願いします。

☆5月20日(金) 研究授業 (5年1組) *研究だより*⑥

☆ 23日(月) 研究主任会

☆ 31日(火) 指導案検討 (6年生)

6 指導案

第5学年 社会科学習指導案

大会指導案要旨様式

小金井第一小

1 小单元名 「あたたかい土地の暮らし」(全7時間)

2 小单元の目標

我が国の国土の様子と国民生活について、気候などに着目して地図帳や各種の資料で調べ、まとめ、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、表現することを通して、人々は自然環境に適応して生活していることを理解できるようにするとともに、主体的に学習問題を追究・解決しようとする態度を養う。

3 小单元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 気候などについて、地図帳や各種の資料などで調べて、必要な情報を集め、読み取り、自然条件からみて特色ある地域の人々の生活を理解している。 ② 調べたことを白地図や文にまとめ、人々は自然環境に適応して生活していることを理解している。	① 気候などに着目して、問いを見出し、自然条件から見て特色ある地域の人々の生活について考え、表現している。 ② 特色ある地域の自然条件と人々の生活や産業を関連付け、国土の自然環境と国民生活との関連を考え、適切に表現している。	① 我が国の国土の様子と国民生活について、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ② 学習してきたことを基に、日本各地の暮らしの様子を予想し、他地域への興味・関心を高めようとしている。

4 本小单元で目指す「社会とつながり未来を創る子供」の姿

「つなぐ」段階では、国土単元と食糧生産以降の単元を繋ぐ1時間を設定した。地形に特色がある地域の学習と気候に特色がある地域の学習において、「学習した地域に生活している人々は、地形条件や気候条件の特色を生かして生活している。」ことを知識として獲得している。本時では、既習事項である地形条件や気候条件に着目しながら、改めて日本の様々な地域について日本の地形図、雨温図を活用して見直していく活動を行う。「同じあたたかい地域でも、山地と平地では盛んな産業は違うのかな。」「低い土地だと平野が広がっているから、農業が盛んではないか。」といった予想を話し合う、対話的な活動を通して、これから学習する産業学習についての興味や関心を高めるとともに、地形条件や気候条件に着目した見方や考え方を働かせられる子供の育成を目指す。

5 教材について

子供が「自然環境に適応して生活している」人々がいることを理解するために、本小单元では気候条件から見て特色のある地域を扱う。事例地として、気候を生かした産業や観光が盛んな沖縄県を取り上げる。我が国の気候の特色である桜前線や海開きなどは、子供の驚きを引き出しやすく、独自の文化は観光に生かされ、多くの人に親しまれている。気候に合わせた家づくり、産業ではさとうきびづくりやパイナップルづくりを取り上げる。他の地域との違いや日本有数の観光地で行われている産業という点にも気付かせたい。地図帳やICT機器、現地の写真資料等を活用して気候や地形に着目しながら調べることで、沖縄県の特色を理解できるようにする。

また、「つなぐ」段階では、立体地形図を活用する。平面図やICT機器では、捉えにくい凹凸を触りながら話し合うことで、様々な産業や災害への備えなど、暮らしをイメージすることができると考える。

6 都小社研の研究内容との関連

(1) 主体的に問いを追究する工夫

本小单元では、学習問題を解決した後、「つなぐ」段階を設定している。沖縄県では、気候に合わせて生活しているという中心概念を獲得した後、導入時から比較して考えている高い土地との共通点を整理する。そこで、どちらも自然環境に適応して暮らしているという概念を獲得する。その際に出ると予想される「他の地域はどうなのだろう。」という、子供たちの思考に合わせた問いから、日本全体に視野を広げ、考えさせる活動を行う。最後に、「産業と自然環境は関係しているのだろう。」と問いかけることで、その後の産業学習においても、自然環境との関わりを意識できるようにする。また、前小单元の視点を活用するために、子供が教科書、図書資料、タブレットを活用したインターネット資料など、資料を選択して調べられるような工夫をする。さらに、「調べる」段

階における学習展開を工夫することで、個人で調べたり、子供同士で情報を共有したりできるようにする。

(2) 社会的事象の見方・考え方が働く学習活動の工夫

前小単元で、高い土地に住む人々のくらしを学習している。学習問題の設定場面でも、高い土地の学習や、4年生で学んだ自然環境を保護・活用している小笠原の学習を想起させ、「沖縄県では、気候に合わせてどんなくらしをしているのだろう。」という問いをもたせる。予想、学習計画の段階では、前小単元と関連付けながら考えさせ、学んだ視点を生かして、本小単元でも問いを設定して調べる計画を立てることで、時短を図るようにする。前小単元で調べた「生活」「産業」「伝統、イベント」の3つの視点を生かして、調べ学習を行う。視点を活用することにより、「高い土地と同じように～」や「あたたかい土地と比べて～」といった、異なる地域を比較する見方・考え方を働かせた記述が出てくることを想定している。

調べるツールは、Xチャートにそれぞれの調べを溜めていく。「まとめる」段階で、それらを総合して考え、学習問題を解決する。思考ツールを活用することにより、それぞれの時間でまとめたことが一目で分かるようになり、共通点が考えやすくなる。Xチャートの活用は、子供の思考を整理する上で有効な手段となると考える。

「つなぐ」段階では、地形や気候の学習を生かすために、立体地形図と雨温図を活用する。このことにより、これまで、働かせてきた社会的事象の見方・考え方を、さらに効果的に働かせ、これからの産業学習などに繋がるようにする。

(3) 子供の学びを確かにする評価の工夫

「調べる」段階では、Xチャートを活用する。そこで、学習内容を一人一人がどのように理解をしているのかを見取っていく。また、子供自身も自分の学びを一目で振り返られるので、調べる内容の関連を考えたり、調べ直したりすることができる。

毎時間の振り返りについては、「ふりかえりの問い」をカードにして活用する。その際には、感想ではなく、次の自分の学びにつながる振り返りが書けるように指導する。全ての問いについて毎時間振り返るのではなく、毎時間の学習活動や評価に合わせて、教師と子供で選択しながら振り返りを行う。このことにより、次の時間の見通しをもつことができ、自分の考えを整理することができる。また、この問いの項目については、定期的に子供と話し合いながら修正していく。これらの取組によって、子供は自らの学びを自覚できると考えた。

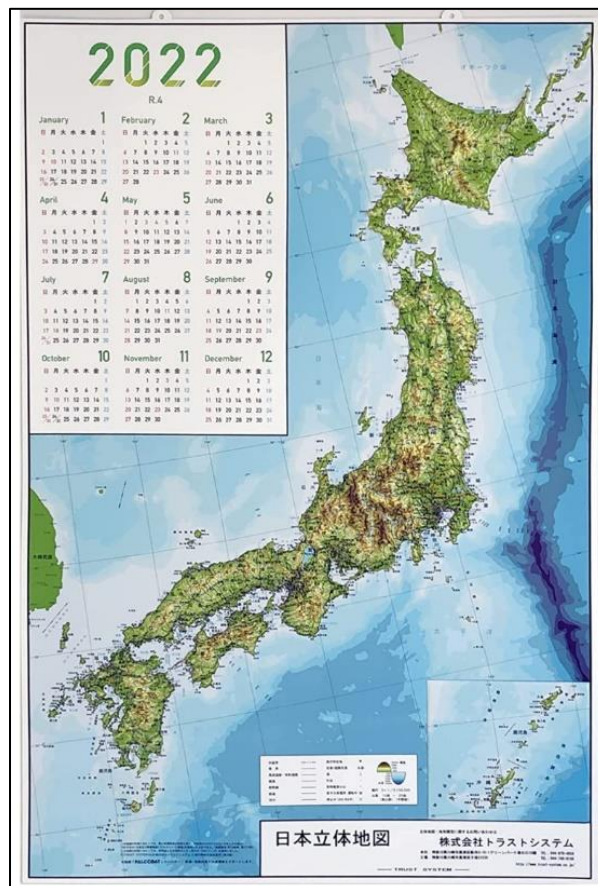
7 本実践の教材のウリ

高低差が分かる
子供が触りたくなる
抜群の触り心地！

地図帳やICT機器にはない
大判の迫力！

既習の地域と
一目で比べられる！

1枚 3000円！
(程度)



グループで同じ
ものを見ながら
話し合える！

雨温図と合わせ
ることで地域と
自然条件を捉え
られる！

この後の産業学
習でも地形の把
握で使える！

何と、理科でも使える！

8 小単元の構想

学習指導要領の位置付け	(1) 我が国の国土の様子と国民生活について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア(イ) 我が国の国土の地形や気候の概要を理解するとともに、人々は自然環境に適応して生活していることを理解していること。
	ア(ウ) 地図帳や地球儀、各種の資料で調べ、まとめること。
	イ(イ) 地形や気候などに着目して、国土の自然などの様子や自然条件から見て特色ある地域の人々の生活を捉え、国土の自然環境の特色やそれらと国民生活との関連を考え、表現すること。
	(内容の取扱い) (1)エ イの(イ)の「自然条件から見て特色ある地域」については、地形条件や気候条件から見て特色ある地域を取り上げること。

子供の主体的な問題解決の側面から

想定される主な「問い」

子供に働かせたい
見方・考え方

社会生活の確かな理解の側面から

見方・考え方を
働かせる資料

子供が獲得できるように
したい知識

<社会的事象と出合う問い>
沖縄県はどのような場所なのだろう。

気候
に着目して
既習の学習
と関連付けて

- ・海開きの様子
- ・那覇と東京の気温と降水量
- ・まち(家)の様子

同じ月でもずいぶん自分たちと違う暮らしをしていることが分かった。婦恋村と同じように、きっとその土地にあった暮らしをしていると思う。

<学習問題>

沖縄の人々はあたたかい気候などをどのように生かしてくらしているのだろう。

<調べる問い>

どのような生活(衣食住)をしているのだろう。

どのような産業(農業、漁業、観光業)が盛んなのだろう。

どのような伝統(文化)があるのだろう。

気候
に着目して

あたたかい気候
に合わせた生活
や産業の様子
に着目して

- ・伝統的な家
- ・台風の数
- ・観光雑誌

- ・主な産業の資料
- ・携わる人の話
- ・観光客数の変化
- ・沖縄が抱える諸問題

- ・伝統的な食文化
- ・琉球舞踊、三線
- ・首里城火災のニュース

台風に備えて、家そのものにたくさんの工夫をしていた。衣食住については、伝統を調べる時につながると思う。

あたたかい気候にあった農業を行っていた。また、観光業も盛んだが、その一方で、白化するサンゴなど課題もたくさんあった。

沖縄県は古くから、アジアの国々との交流があった。そのため、独自の文化があり、それを誇りに思っている。

<特色や意味を考える問い>

調べたことからどのようなことが分かるのだろう。

調べた事象を
比較して、
共通性を
総合して考え

沖縄県の人々は、あたたかい気候にあった農業や、伝統や気候や地形を生かした観光業を行うなど、台風に対する備えをするだけでなく、気候の特色を生かした暮らしをしている。

<国土と産業をつなぐ問い>

他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう。

自然条件
と関連付けて考え

- ・雨温図
- ・立体地形図
- ・Google earth

高い土地の地域もあたたかい土地の地域も、人々は自然条件を生かして暮らしている。日本の他の地域でも同じように、それぞれの地形や気候を生かして暮らしているだろう。それは、農業や畜産業、水産業など、食料生産や他の産業にも関わっていると思う。これから調べていきたい。

つかむ

調べる

まとめる

つなぐ

9 小単元の指導計画（全7時間）

過程	ねらい	主な学習活動（○） 評価につながる学習活動（●） 問い、本時の課題（◆） 予想される子供の反応（・）	◎資料 【評価】 □指導上の留意点
つ か む	沖縄県の気候の特色を理解し、学習問題を設定し、学習計画を立てる。①	○シュノーケル教室の写真を読み取る。 ・学校の授業でこんなことをやっているんだ。 ◆ 沖縄県はどのような場所なのだろう。 ○気温と降水量を読み取り、話し合う。 ・東京に比べて、ずいぶんあたたかい。 ○航空写真を読み取り、くらしについて話し合う。 ・高い建物が少ない。 ○家の工夫について調べる。 ・台風に備えているのかな。 ◆ どのような生活をしているのだろう。 ●前小単元の学習を振り返り、学習問題を設定する。 ・孀恋村とどのように違うのか。 ・温かい気候を産業にどう生かしているのだろう。	◎シュノーケル教室の写真 ◎沖縄の気温と降水量の推移 ◎沖縄のまちの写真 ◎伝統的な家のづくり □既習の地域や自分たちの地域と比べる。 【思判表①】発言・ノートなどの記述から「気候に着目して、問いを見出し、低地に暮らす人々の生活について考え、表現しているか」を評価する。
沖縄の人々は、あたたかい気候などをどのように生かしてくらしているのだろう。			
		○予想を話し合い、何を調べたらよいかを考え、学習計画を立てる。 ・孀恋村でもその土地にあった産業をしていたから、盛んな産業があると思う。 ・孀恋村では、高い土地の涼しい気候を生かして、イベントを開いていたから、沖縄でも、あたたかさを生かして何かしていると思う。 学習計画 ①くらしの工夫 ②産業（農業、漁業、観光業） ③伝統（歴史） ●学習の見通しを考え、ノートに記入する。 ・それぞれの共通点を見付けやすそうだから、Xチャートを使ってみよう。	□既習の学習と関連付けて学習計画を立てる。 □最初の問いは共通にして、モデル学習を行う。 【態度①】ノートなどの記述から「沖縄県の様子とそこに住む人々について、既習事項と関連付けて予想したり、学習計画を立てたりしているか」を評価する。
調 べ る	沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かし、農業や漁業を行っていることを理解する。②	◆ どのような農業や漁業がさかんなのだろう。 ○資料を使って調べ、事実を整理する。 ・サトウキビやパイナップルを作っている。 ・カツオやマグロがよくとれる。 ○整理した事実を、学級内で共有する。 ◆ どうしてこのような産業がさかんなのだろう。 ○調べた事実を基に話し合う。 ・あたたかい気候を生かすことができるから。 ・周りを海に囲まれた島だから。 ●次時以降の学習計画を立て、振り返りを書く。 ・同じ産業の観光業を先に調べれば伝統が分かっつきそうなので次は観光を調べよう。	◎教科書、資料集 ◎自分で持ってきた資料 ◎動画（Googleclassroomで配信） □学習過程を学級内で確認しながら進める。 □資料の選択方法について確認する。 □共有する時間を生かして、自分が分からなかった部分を解決するようにする。 【知技①】発言やノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、沖縄県では、あたたかい気候を農業や漁業に生かしていることについて理解しているか」を評価する。
	沖縄県の人々は、あたたかい気候を生かして観光業を営んでいることを理解する。③	◆ どのような観光業がさかんなのだろう。 ○資料を使って調べ、事実を整理する。 ・海でのレジャーを楽しむことができる。 ・スポーツのキャンプ地を見ることができる。 ○整理した事実を、学級内で共有する。 ◆ どうしてこのような産業がさかんなのだろう。 ○調べた事実を基に話し合う。 ・早い時期から海に入れたり、運動したりしやすい気候だから。 ●次時以降の学習計画を確認し、振り返りを書く。 ・調べてきた産業と伝統はつながりがありそうなの	◎（前時と同じ） □導入時に自分と同じ内容を調べる子供を確認させる。 □教員は、個別の指導を主に行う。 Aの子供→意味を問う、次の見通しをもたせるようにする。 Bの子供→自分が調べている内容や方法以外について、声掛けを行う。 Cの子供→問いにあった資料、部分を伝える。 【知技①】発言やノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、沖縄県では、あたたかい気候を観光業に生

		で注目しながら調べていくようにする。	かしていることについて理解しているか」を評価する。
沖縄県の人々の伝統的な文化や、自然を保存・継承している人々について理解する。④⑤	<p>◆どのような伝統や文化があるのだろう。</p> <p>○資料を使って調べ、事実を整理する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄の料理は、昔からの伝統がかかっていた。 ・自分たちの文化に誇りをもっている。 <p>○整理した事実を、学級内で共有する。</p> <p>○調べ足りない問いを調べる。</p> <p>○沖縄の現状を振り返り、問いを見出す。</p> <p>◆これからも沖縄県は、観光に力を入れていった方がよいのだろうか。</p> <p>○調べた事実を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光が産業の中心なので、力を入れていくしかない。 ・自然環境を守らないと、将来、観光客も来なくなってしまう。 <p>●学習過程を整理し、振り返りを書く。</p> <p>・伝統を最後に調べたことで、沖縄のこれからのについても考えやすかった。</p>	<p>◎（前時と同じ）</p> <p>□（前時と同じ）</p> <p>【知技①】発言やノートなどの記述から「必要な情報を読み取り、沖縄県では、伝統や文化を大切にしていることについて理解しているか」を評価する。</p> <p>□問い直すことで学習過程を振り返り、自分で調べ直す時間をつくる。</p> <p>□これまで調べたことを基に、話し合いをさせるようにする。</p> <p>【思判表②】まとめの文章の内容から「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。</p>	
学習したことを整理し、学習問題に対する自分の考えをまとめる。⑥	<p>◆調べたことから、どのようなことが分かるのだろう。</p> <p>●Xチャートやノートから、共通点や繋がりがあることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あたたかい気候を生かしている。 ・伝統と観光業は繋がりがある。 <p>●学習問題に対する自分の考えを表現する。</p>	<p>◎調べる時間に作成したYチャート</p> <p>□既習の学習や調べてきたことを比較するよう促す。</p> <p>【思判表②】まとめの文章の内容から「あたたかい土地の自然条件と人々の生活や産業を関連付けて考え、適切に表現しているか」を評価する。</p> <p>【知技②】まとめの文章の内容から「沖縄県に住む人々は、自然環境に適応したり生かしたりしながら生活していることを理解しているか」を評価する。</p>	
まとめる	<p>沖縄県の人々は、あたたかい気候にあった農業や、伝統や気候や地形を生かした観光業を行うなど、台風に対する備えをするだけでなく、気候の特色を生かしたくらしをしている。私たちが住ん</p>		
学習してきたことを基に、自然環境と国民生活のつながりを考え、次単元への興味・関心を高める。⑦ 〈本時〉	<p>○学習してきたことを振り返り、高い土地とあたたかい土地の暮らしの共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高い土地で暮らす人々もあたたかい土地で暮らす人々も、地形や気候などを生かした生活をしている。 <p>○日本の白地図上に姶良村や沖縄県の位置を示し、自然環境と国民生活のつながりを考える。</p> <p>◆他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう。</p> <p>○地図や雨温図を用いて、日本各地の産業の様子を予想する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広い平地を生かして、東北地方でも農業がさかんだと思う。 ・海沿いでは、漁業が盛んなのではないか。 <p>●振り返りを行う。</p>	<p>◎ノート</p> <p>◎日本地図 ◎雨温図</p> <p>□小単元全体を通した自分の学び方についても、振り返るように促す。</p> <p>【態度②】発言やノートなどの記述から「学習してきたことを基に、日本各地のくらしの様子を予想し、次単元への興味・関心の高まりが見られたか」を評価する。</p>	
つなぐ			

10 本時の学習 (7/7時)

(1) 本時のねらい

学習してきた国土の地形や気候の概要を基に、自然環境と国民生活のつながりを考え、他の地域への興味・関心を高める。

(2) 本時の展開

	○主な学習活動 ・ 子供の予想される反応	◎資料 【評価】 □教師の手立て
つかむ	<p>○前時までの学習を振り返り、2つの事例地の共通点を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 嬭恋村に住む人々は、高い土地のすずしい気候を生かしている。 ・ 沖縄に住む人々は、あたたかさを生かした観光業を行っている。 ・ 寒い土地で暮らす人々も低い土地で暮らす人々も、地形や気候に合わせて、地形や気候を生かしたりしながら生活をしている。 <p>○問いを見出す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 本時の問い：他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう </div>	<p>◎白地図</p> <p>□地形や気候の概要を振り返り、白地図上に嬭恋村と沖縄県の位置を示し、「高い土地」と「あたたかい土地」で学習してきたことを比較させ、共通点に着目させる。</p>
	<p>○問いに対する予想を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道は、広い土地を生かした産業をしていると思う。 	<p>□一つの事例地を例として確認し、グループ活動に入りやすくする。</p>
つなげる	<p>○立体地形図と雨温図を用いて、日本各地の生活や産業の様子について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日本海側は雪が多いから、北海道と同じで雪を生かした観光が盛んだと思う。 ・ 山地が多いということは、木も多いはずだから木を生かした産業をしているかもしれない。 ・ 日本の中央に火山が多いから、何か対策をしているかもしれない。 <p>○話し合いを共有する。</p> <p>○共有したことを基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京湾の周りに工場が多かったから、工業が盛んかもしれない。 <p>○話し合ったことを共有する。</p>	<p>□既習事項を基に予想を立てるよう促したり、予想するためにどのような資料が必要かを確認したりする。</p> <p>◎立体地形図 ◎雨温図</p> <p>◎白地図</p> <p>□資料の読み取りにならないようにする。</p> <p>◎Google Earth</p> <p>□Google Earthは必要に応じて使わせる。予想に出てきていない地域を拡大したり、話題になった地域の航空写真の様子を見たりして、自然環境と関わりがないかを予想させる。</p>
	<p>○今後の学習の見通しをもつ。</p> <p>振り返りの問い</p> <p>【③考えたこと ⑤どうしたかったか ⑧そもそもどういうことか】</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px auto;"> <p>立体地図や雨温図を見て、日本の様々な地域の様子を予想してみて、緑の多いところは農業が盛んで、少ないところは工業が盛んなのではないかと考えた。自然環境を生かして生活しているのは、日本のどの場所でも同じだと思う。これから始まる、農業や工業の学習でも、その土地の地形や気候に注目して調べていきたい。</p> </div>	<p>【態度②】発言やノートなどの記述から「学習してきたことを基に、日本各地のくらしの様子を予想し、他の地域への興味・関心の高まりが見られたか」を評価する。</p>
まとめる		

(3) 本時の板書計画

他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろう。

共通点	地形図	雨温図	白地図	○
気候や地形を生かしている。				